

令和元年度第2回伝国の杜運営協議会議事録

1 開催日時 令和元年12月16日(月)午前10時30分～午前12時

2 開催場所 伝国の杜2階 第2小会議室

3 出席者

(委員)

堀江 昭浩(置賜地区高等学校教頭会会長)

後藤 満男(中学校教頭会会長)

山田 隆弘(小学校教頭会会長)

小川 正昭(一般社団法人米沢観光コンベンション協会専務理事)

那須野桂子(伝国の杜ファンクラブ)

前山みゑ子(伝国の杜サポーター、おしょうしなガイド)

長谷川茂則(米沢フィルハーモニー管弦楽団)

山村 洋子(原始布・古代織参考館副館長)

山根 秀樹(米沢古典塾主宰)

計 8名

(事務局) 公益財団法人米沢上杉文化振興財団

種村信次(理事長)、島津眞一(副理事長兼博物館長)、

菅野智幸(常務理事兼事務局長)、角屋由美子(学芸主査)、花田美穂(学芸主査)、

阿部哲人(学芸主査)、遠藤友紀(主任学芸員)、佐藤正三郎(主任学芸員)、

藤元周平(主任舞台企画員)、寒河江大輔(主任)、小松史織(主事)、

鈴木里津(主事)

計 12名

欠席者

(委員)

布施 賢治(米沢女子短期大学教授)

4 開会(常務)

5 あいさつ(理事長)

本日はご多忙の中、ご協力頂き深謝する。昨年度と今年度を比較したときに、道の駅よねざわが完成してからそちらに観光客が入り、道の駅で全て用が済ませてしまう人が多く、昨年の入館者数より今年度の入館者数が少なくなっているのが事実である。ただ、当館は今年は春に特別展「葵の姫のものがたり」、秋に特別展「上杉家武家の文化公家の文化」を行ったところ、昨年同時期の2つの特別展入館者数より今年度特別展の入館者数が多かったという点が非常に良かったと感じている。

これからの教育について、地域の歴史や文化に触れるということは極めて大切なことであり重要視していかなければならない。そのために子供たちにとって上杉エリア及び伝国の杜がもっと身近な施設になり根付くように工夫していく必要があり、本日委員の皆様へ頂いた意見を参考にしていきたいと考えている。今後とも引き続いてご意見等頂戴したい。

6 議 事

運営協議会要綱第6条に基づき、小川正昭会長が議長として議事を進行。

(1) 第1回伝国の杜運営協議会の意見要望に対する取り組みについて（資料1）

資料1について、事務局長から概略を説明した。

(議長)

前回協議会より時間が経ったので、改めてそれぞれ委員の方から意見、質問等のコメントをお願いしたい。

(堀江委員)

丁寧に考えて下さっていると感じた。高校生との繋がりについては、資料1にもあるが学生音楽団体を呼び合宿を行うことが実現できたら、多くの高校生にとって伝国の杜が身近に感じられるのではないかと思う。難しいという話であったが、引き続き取り組んで頂ければと思う。

(後藤委員)

前回の意見等を集約して頂き感謝する。資料1の中学生の博物館利用について、資料3の来年度企画展示事業で教育普及が目的の展示が企画されているので、中学生が来館するような仕組みを作って頂けるとありがたい。ナセBAにも中学生が来館しているようであるので、今後ナセBAや閉店してしまった大沼デパートの空きフロアなどをもし展示などで活用できるならば、中学生の教育普及の場所を増やして頂ければと思う。

(山田委員)

スペースの活用がポイントとして出ているが、様々意見を考えて頂き感謝する。伝国の杜のピロティで「愛の武将隊」がパフォーマンスを行っており、来館者に喜ばれているようだ。うまくスペースを活用されているようで良いと感じている。

(山村委員)

ホール関係として、「能楽の祭典」を観に行ったが入場者がだいぶ少なく、入場者が増えるような対策を考える必要があると強く思った。

(長谷川委員)

SNSを使用した対応を考えて頂き感謝する。気軽に情報を発信すれば学生や若い世代が伝国の杜に訪れやすい環境を作ることができるので、積極的に活用して頂きたい。

(前山委員)

伝国の杜ファンクラブ事業「城下町デジタルマップと楽しむまちあるき」にガイドとして参加したが、参加者からとても好評であった。また、おしよしなガイドとして今年度博物館に案内した観光客は11月までで回数は97回、1,600人であった。引き続き博物館とタイアップし博物館の良さを宣伝していきたいと思っている。来年度の展示事業の中に特別展「米沢城」という展示企画があり、米沢城は続100名城に登録されている。「100名城巡り」ということで著名な城をめぐっている観光客も多くいる中で、残念なことに米沢城は石柱だけでそれもわかりづらいので、博物館でお願いすることではないかもしれないが、何とか対策して頂ければと思う。

(議長)

まちあるき事業は何人くらい集まったのか

(事務局)

大体15名ほど集まった。

(前山委員)

常には案内できないところも案内できたので、感動された方も多かった。

(山根委員)

ホール事業は、良い企画が多いが、客層は高齢な方が多くなるとか若い年代に来てもらうような工夫が必要だと思っている。地元の学校と連携して、もっと若い世代に来てもらうようにしてほしい。

(那須野委員)

子供個人で博物館に来るのはなかなか難しいため、学校行事として来館する行事の回数を増やすなどすれば、将来的に入館する人が増えるのではないかと考えている。また、高速道路無料効果で車で米沢に来る人が増えてきている。その観光客を道の駅だけでは無く、こちらのエリアにも来てもらうようにできれば良いと思う。

(議長)

学校行事は年間1、2回という印象があるが、その回数などは調整できるのか。

(後藤委員)

教育課程や学校計画があるので、それも考慮して組まれている。ただ、中学校に関しては9月に修学旅行がありその時期に第1学年で米沢の文化や歴史を学ぶ授業がある。その一環で博物館などに来館するので、授業で来館したことで興味を持ち今度は自分で来館するようになればいいと思っている。

(議長)

春から夏にかけて、福島の中学生在が米沢に来てグループに分かれて歩いて周り、歴史研究をしているようだ。米沢の中学生はそういう授業はあるのか。

(後藤委員)

会津若松の中学生在が班別研修でグループごとに分かれて歴史や文化を勉強しに行く取り組みがあるようだ。米沢の学校もそのような取り組みをできないかと考えている。

(議長)

そういった取り組みをしているところもあるということ踏まえ、今は働き方改革で先生方はなかなか時間をとるのが難しいがぜひ取り組んでほしいと思う。

(2) 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営中間評価について (資料2)

資料2について、事務局長が概略を説明した。

(議長)

評価については第一回協議会でも内容の説明を受けたが、今回改めて質問等ある場合はお願いしたい。

(後藤委員)

評価項目に、米沢市中学生チャレンジウィークを受け入れ、趣旨に沿って指導するとあるが、毎年中学生を受け入れていただきありがたいと感じている。仕事を通して様々な経験をしその後の進路や学習に役立てているということもあるので、是非、来年以降も引き続き続けていただきたい。

(議長)

「インターンシップ指導プログラムの充実を図る」という項目があるが、このプログラムはどのようなものなのか。

(事務局)

今年はインターンシップ受け入れがなかったが、山形大学から1、2名の学生が来ることがある。主に学芸員の仕事を希望してくる学生のため、一緒に学芸の仕事約2週間程行なっている。また、チャレンジウィークでは博物館やホール、総務といったすべての業務をシフト制で行ってもらっている。子供達は、とても実践力があり一生懸命で助かっている。

(議長)

これからも人数を多く受け入れて活動してほしい。

(事務局)

事業所で受け入れ人数14名という数字は他事業所と比べて多い数字である。引き続き受け入れを続けていきたい。

(議長)

子供達が御廟所でおしょうしなガイドの体験をしている時があるが、観光客にとっても喜ばれており、とても良い経験だと感じている。引き続きお願いしたい。

また、資料項目で「データベースの登録」とあるが、これは毎日作業があるのか。

(事務局)

資料管理上のデータベースがあり、新しく収蔵した資料について随時登録し、登録したものと資料の番号が現物と一体になって初めて収蔵庫で管理できるという流れで管理を行っている。データベース上はすぐ登録できるが、写真撮影と登録がなかなか追いつかない現状である。撮影ができないと公開もできないため、公開できていない資料も数多くあるという状況である。

(前山委員)

教育や子供達との連携の面から話すと、伝国の杜サポーター活動としてミュゼデュウを市内の学校に発送する作業を行っている。一つ一つ枚数を確認して発送するのが大変であるが、博物館を支えるというサポーターの活動で大切な作業だと考えている。実際に発送したミュゼデュウが子供達のどれくらい読まれているか関心があるので、是非先生方に呼びかけていただきたい。また、先程能楽の祭典の話があがったが、観る人が少ない点について気になっている。日本の昔ながらの文化をもっと多くの人に知ってもらいたいが、なかなか来場者が増えてない。無料ではなく例えば、500円程度の入場料を取り入場者の増加を狙えないだろうか。

(事務局)

能楽の祭典の有料化に関して、元々能楽の祭典は数年前の国民文化祭の時に誕生した行事であり、それ以降は愛好家の方が参加を続けている。出発点が無料であったということもあり、有料にしてどうなるかということも含めこれから検討していきたい。

(那須野委員)

能楽の祭典に関して、当日遅い時間に来場したのにも関わらず客席はご家族の方や、演者の方しかいないように見えた。一方で有名な方が来る催事はチケットがすぐ完売する。演者の方も一生懸命されているのでなんとか人が集まる工夫をお願いしたい。例えば、能舞台が動くのでその動かす回数を増やし公開するなど、そういう機会を増やすのが大切だと思う。

(事務局)

なかなか能舞台を動かす機会を増やすのは難しいのが現実である。また、能楽を趣味にしている方自体も高齢化し、少なくなってきている現状を踏まえ、先程あった有料化も少しずつ検討していく必要があると感じた。

(議長)

高齢化については今回の能楽についてに関わらず、会社の後継者問題や、様々な事柄で問題として取り上げられている。伝国の杜だけではなく、金剛流や愛好家の方々にもよりPRしていただく必要があると感じた。

(山根委員)

能楽の祭典はホールに能舞台を移動させて行っているがそのまま移動させないで行うことはできないのか。博物館入館者にも見せることでPRできるのでは。

(事務局)

ホールで能舞台を見ながら公演を見てもらうのと、そのままエントランスで行う点を比較した時に、それぞれ雰囲気の違い、少し所作なども違って来るようである。この件については金剛会の方々と相談、連携しながら検討していきたい。

(那須野委員)

能楽を観る位置であるが、本来殿様が観る位置は能舞台のそばではなく、上の方向から観ていたという話を聞いたことがある。そういう意味ではホールで行うのが、もし

かすると正しいのかもしれない。

(議長)

先程サポーターの話が出たが、本日配られたサポーター通信について簡単に説明していただきたい。

(事務局)

年 4 回発行しており、主に 2 つ目的がある。一つはサポーターの方々がどのような活動をしているのかを、同じサポーターの人やサポーターではない外部の人にこの活動を知ってもらうという目的。もう一つは通信で今後の活動予定をお知らせする目的がある。最近では冬号を発行しており、ハンディキャップの対応を研修した内容を掲載した。

(3) 米沢市上杉博物館・置賜文化ホール開催予定事業について (資料 3、4)

資料 3、4 について、事務局長から概略の説明をした

(議長)

なかなか珍しい宇宙をテーマにする展示を行う予定とのことだが、この展示はどこかとタイアップした展示であるのか。

(事務局)

今回の展示は基本的には NASA や国立天文台が撮影した写真を使用してアート作品としても鑑賞できる写真展である。当館では立体的な展示として JAXA と調整し、はやぶさやイトカワの模型展示や国立天文台の副館長と当館名誉会長上杉氏との対談式の講演会や関連事業を予定している。この展示を通して、地球がいかに稀有な存在であるか等幅広い世代に知ってもらえればと考えている。

(議長)

夏休み期間であるので、小中高生など来館を望める展示だと思う。宣伝などにも力を入れてほしい。

(那須野委員)

こういう機会もなければならぬと感じた。

(4) その他

(議長)

年の最後の運営協議会であるので、総括して委員の皆さんに一言ずついただきたい。

(堀江委員)

なかなか高校生の来館が少なく、そちらをこれから PR していく必要があると感じた。先程話にもあがった来年の展示「宇宙の旅」は高校生も興味がある内容であるので、学校の方でも PR を行っていきたい。また、山大学生も地域に住んでいる学生であるので来館誘致できればと思う。

(後藤委員)

いろいろな工夫を行って頂いていることを改めて知って、学校の方でも PR を行っていく必要があると感じた。いろいろなチラシや通信も頂いても子供達にそういう作成背景を説明しながら渡す工夫が必要だと思う。その活動の中で米沢が好きという子供達を増えるようにしていきたい。

(山田委員)

内覧会などで説明して頂いて展示を観るとやはり見栄えも上がると感じている。こういうガイドツアーのようなものを企画していただくと見る側としてはよく分かると思う。また、SNS に関してよく民間の会社が社内のレンタルスペースの宣伝をしているが、公共施設なのでなかなか実現は難しいと思うが、場所を貸して外部の人が展示などを行うのも面白いのではと考えた。また、来年当学校が 140 周年記念事業

でホールをお借りして、その後伯爵邸で祝賀会を行う予定である。このように一つのエリアですべて完結できるというメリットもあると感じている。

(山村委員)

博物館で様々な展示を見るのをとても楽しみしており、勉強させて頂いている。話にも出たが、会津若松や仙台の中学生たちが米沢にきて歴史や文化を学びとても感動して帰っているようである。地元の米沢の中学生達が来館してもらえるようなPRしていく必要がある。来年もこのような場に多く参加していきたいと考えている。

(長谷川委員)

ホール事業に関しては集客が重要であるが、最近は経験上なかなか集客が難しくなっている。その中で招待券を教育機関に配布してもなかなか子供達や担当者が来てもらえないのが現実である。多くのチラシが配られることと、学校行事やテスト期間などという行事もあり、土日に子供達が動ける時間を取るのが難しくなっているようである。

先程理事長の話でもあったが教育として文化を理解するのが重要であるが、この現状であるとなかなか難しいと思う。そちらに関しては、教育機関を巻き込んで考えていかなければならないと思う。

(前山委員)

米沢に来ていただく人に、いかに満足して頂けるかが問題であるが同じような人や年齢層を案内している現状がある。おしよしなガイドとして、広い年代に関心を持ってもらえるようにスキルアップしていきたいと考えている。学芸員に講師になっていただき、勉強会もたくさんして頂いているので質を高めていきたいと感じている。

(山根委員)

先程来年度展示「宇宙の旅」の話があったが、何年か前に猫の写真の展示がありそれがとても印象的だった。写真の力の強さを感じたので、そういった展示を期待している。また、自宅が近所であり伝国の杜が見えるのだがホールに電気が付いていると何か行事をしていると嬉しく思う。引き続き多くの事業を行っていただきたい。

(那須野委員)

今の中学生は部活や行事などで大変多忙であると感じている。また、博物館に関心を寄せさせるのも難しくなっている。子供達が成長して周りの人や市外の人に米沢の文化の素晴らしさを教えてもらって博物館に來たり関心を持ったりすることもあるので、時間をかけて取り組んでいくしかないと考えた。

(事務局)

昔、学校の校長先生が米沢の歴史や文化について講話してくださったのを今でも覚えている。このように教育の場で文化に触れてもらえる取り組みがあれば子供達も興味を持つのではないかと。

(議長)

これから教育現場というのはますます厳しい環境になっていく。しかし、子供達は地域にとって宝であるので、伝国の杜の職員の皆さんや教育機関の皆さんには頑張っていたいただきたいと思う。

10 閉会 (鈴木)